

【様式】

令和6年度 学校マネジメントシート

学校名(いなべ総合学園高等学校)

1 目指す姿

(1)目指す学校の姿		自主自律のもと「生徒一人ひとりの能力の伸長」と「教職員の達成感」を常に追い求め、地域の人々に信頼される学校を目指します。
(2)	育みたい資質・能力(育みたい生徒の姿) 【グラデュエーション・ポリシー】	○ 自己管理ができ、進路実現に向け主体的に学習や部活動等の教育活動に取り組んでいます。 ○ 人間関係力やコミュニケーション能力があり、チームとして活動ができます。 ○ 地域社会に興味・関心を持ち、主体的に社会貢献に取り組んでいます。
	ありたい教職員の姿	○ 学校全体の情報共有・意思疎通を図り、「誰のため」「何のため」を意識して、教育活動に取り組めます。 ○ 言葉だけでなく、自らの姿(行動)からも教え育てます(「率先垂範」)。 ○ 生徒に寄り添い、生徒と対話し、一人ひとりの力を引き出します。 ○ 人々の価値観や社会が激しく変化していることを踏まえ、新たな知識を学び、感覚を磨き続けます。

2 現状認識

(1)学校の価値を提供する相手とそこからの要求・期待		〈生徒〉 進路実現に向け、充実した高校生活 〈保護者〉 安全・安心で師弟同行が感じられる充実した学習環境 〈地域〉 学校の専門知識や施設の提供による地域の活性化
(2)連携する相手と連携するうえでの要望・期待	連携する相手からの要望・期待	連携する相手への要望・期待
	〈家庭〉 連携・協力するにあたって、学校の現状や課題の共有 〈中学校〉 高校生活や進路状況等、情報の提供 〈地域〉 地域の活性化のための若い力の提供	〈家庭〉 本校教育方針への理解と協力、共に育てるための信頼と連携 〈中学校〉 効果的な指導をするための生徒の情報共有 〈地域〉 本校教育活動への理解、共に育てるための信頼と連携

(3)前年度の学校関係者評価など		○ 令和5年は運動・文化双方の部活動が全国レベルの大会等へ出場するなど、様々な方面で生徒が活躍することによって、いなべ総合学園の知名度が向上し、また、就職・進学共に大部分の生徒の進路希望を実現するなど、総合学科の魅力を遺憾なく発揮することができた。今後もこのような成果を残していくために、現在の学校規模を維持して、総合学科としての特色的な取組を継続してほしい。 ○ 県の事業として取り組んだ読書活動推進事業で実施したイベント等は興味深い取組であったので、いなべ総合学園に在籍する多様な生徒にとって学校図書館が居場所の一つとして位置づくよう、継続して取り組んでほしい。 ○ 新たな形態で取り組んだ信頼向上委員会で検討した内容について、具体的な改善につなげ、教職員の資質や意欲の向上につなげてほしい。継続審議していくものがあるようなので、更なる取組を期待したい。 ○ 多様な生徒が在籍していることから、生徒の声に耳を傾け、対話を行いながら粘り強い指導を継続してほしい。 ○ きずなネット等で適切に情報発信してもらっている。引き続き、こまめな情報発信をお願いするとともに、不信感を抱かないためにも悪い情報も共有してほしい。
(4)現状と課題	教育活動	○学習指導について ・ 学力向上を図るため、学習習慣の確立や学習意欲の向上に向けた取組が必要である。年次と教科が連携し家庭学習時間の増加に向けての取組が進められているが、生徒個人個人の差が大きいのが現状である。主体的・対話的で深い学びの実現、ICTの有効活用等、生徒の興味・関心を引き出す魅力ある授業づくりに継続的に取り組む必要がある。 ○進路指導について ・ 生徒の進路は多岐にわたり、多様な対応が求められる。社会の動向や生徒の実態を踏まえ、進路指導部と年次の連携のもと進学・就職共に良い結果に繋がるよう、キャリア教育、公務員対策や課外授業などの更なる充実を図り、生徒の進路実現に取り組む必要がある。 ○生徒指導について ・ 落ち着いた教育環境の中、生徒は学習活動に取り組んでいる。今後もいじめの早期発見・早期対応に取り組むとともに、生徒会等と連携し、規範意識の向上や命を大切に生き抜く力の育成に積極的に努める必要がある。 ○保健管理について ・ 自他の心身の健康に関心を持つ姿勢を育むことが大切である。心身の健康に関する知識や関心を高めるため、引き続き健康教育及び環境教育の充実、相談できる体制づくりに取り組む必要がある。
	学校運営等	○開かれた学校づくりについて ・ 学校の最新情報をホームページや説明会等により積極的に情報発信し、本校の魅力を多くの人に伝える取組を引き続き行う必要がある。 ○学校経営改革について ・ 信頼される学校を実現するため、行動計画を策定し積極的に実践する必要がある。また、風通しの良い職場環境づくりに努め、課題や情報の共有、課題解決に向けた現職教育(校内研修)の実施等により、教職員一人ひとりの資質能力の向上に努める必要がある。 ・ 教員が心にゆとりを持つことで、充実した教育活動が実践できると考えられることから、総勤務時間の縮減に向けて会議時間の縮減等、更に具体的に取り組んでいく必要がある。

3 中長期的な重点目標

教育活動 【カリキュラム・ポリシー】	<カリキュラム・ポリシー> ◎ 教科・科目を系列に分類し、それぞれの系列に対応した選択科目を編成し、講義・実験・実習等を組み合わせた調和のとれた学習活動を実践する。
----------------------------------	--

	○ 総合学科高校必修科目である「産業社会と人間」を設置し、1年次からキャリア教育を推進する。 ○ 1年次からのキャリア学習の結果、自らの興味関心、進路希望を定め、それらを実現するための系列及びそこに開設された選択科目を主体的に選択し、学習を行う。 ○ IVYタイム(総合的な探究の時間)における探究的な学習活動を通して、生涯にわたり学び続ける態度を身に付ける。 ＜具体的な取組＞ ・ 学習習慣の確立や学習意欲の向上に向け、引き続き、生徒の興味・関心を引き出す魅力ある授業づくりに積極的に取り組んでいく。 ・ 進路保障の更なる充実に向け、キャリア教育や課外授業等において、成果を見据えた取組を行う。 ・ 成年年齢18歳を見据え、成人として必要な知識・技能を生徒が身に付けられるよう取り組むとともに、基本的な生活習慣や規範・美化意識の確立など社会性の育成に向け、生徒会を中心に保護者や地域と連携し、生徒自身が自発的に意識を高めていく雰囲気づくりに取り組んでいく。 ・ 命を大切に、生き抜く力の育成に向け、人権教育や危機管理教育等、意識の向上に繋がる取組を積極的に行う。
学校運営等	・ 学校の最新情報等をホームページなど様々な角度から情報発信し、本校の魅力を多くの人に伝える取組を積極的に行う。 ・ 信頼される学校を目指して、行動計画を更新し積極的に実践する。また、風通しの良い職場環境づくりに努め、課題や問題の共有、その課題解決に向けた現職教育(校内研修)の充実など積極的に取り組んでいく。 ・ 総勤務時間の縮減に向け、会議時間の縮減など、具体的な取組を行う。

4 求める生徒像

入学時に期待される生徒の姿 【アドミッション・ポリシー】	○ 基本的な生活習慣が身に付いており、本校で実施するカリキュラム・学習内容・部活動等教育活動全般に対して強い興味・関心を持つ生徒で、かつ入学後、意欲的に学校生活を送る意志のある生徒 ＜次のいずれかに該当する生徒＞ 「学習について」 ○ 国語・社会・数学・理科・英語・芸術・体育等の各教科に関わって、優れた資質を持ち、得意分野の中から入学後も学習活動に意欲的である生徒 ○ 全ての教科に対して真面目に学習活動に取り組める生徒 「部活動等について」 ○ スポーツ・文化活動等で優れた実績や能力があり、入学後もその活動を継続して行う意思のある生徒 ○ 個々の部活動において、意欲的に活動する意思のある生徒 「学校生活について」 ○ 生徒会活動・学級活動で実績のある生徒 ○ ボランティア活動・人権活動に積極的に取り組める生徒 「進路について」 ○ 将来、地域社会に根差し、地域の一員として社会貢献をする意欲のある生徒 ○ 自分の夢の実現に向け、向上心を持って専門性を高めようと努力する生徒 ○ 四年制大学に進学を希望し、意欲的に学習に取り組める生徒
--	---

5 本年度の行動計画と評価

(1)教育活動

教育活動に関する項目は、児童生徒を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「教育課程・学習指導」「キャリア教育(進路指導)」「生徒指導」「保健管理」など

また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」：定期的に進捗を管理する取組 「◎」：最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
○学習指導	・ 生徒一人ひとりの学力の伸長を図り、すべての生徒に学習機会の保障と学力の伸長を行う方法や1人1台端末を活用した教育の方法を研究します。 ・ 学習習慣の確立と定着化、生徒の進路希望実現に向けた学力の伸長のために、関係分掌との連携や情報発信を図ります。 ・ 授業の創意工夫と改善に努めます。家庭学習の強化など教職員間の情報共有を図り、生徒の進路希望実現に向けて授業改善に努めます。 ・ 「産業社会と人間」や「IVYタイム(総合的な探究の時間)＝進路指導部の文言と統一」におけるキャリア教育を通して、生徒自らが思い描いた進路希望の実現につながるような科目選択を、生徒が主体的にできるよう指導します。 ・ 予習・授業・復習のサイクルで学習習慣の確立に努めます。提出物の徹底と期限を守れるよう指導します。	・ 成績不振者への補習授業や進学希望者への特進塾など、生徒の実情や進路希望に応じた活動を実施しました。 ・ 生徒個々が学習習慣を身に付けられるように課題や宿題、調べ学習などの取組を行いました。年次や他分掌と相談や情報交換などは細かく行いましたが、連携については課題が残っていると考えています。 ・ 教員が相互に授業見学を行いました。特にICTを活用した授業作りを各教科が工夫して実践に取り組みました。 ・ 生徒の希望を尊重しつつ、教員の配置も勘案したうえで科目登録を行いました。改善に向けた検討は継続して行っていくことが必要と感じています。 ・ 年度途中の生徒への学校生活に関する調査から時間や提出物の期限を守れる生徒は、1年次 57%、2年次 59%、3年次 70%ほどであり学習習慣が定着していない生徒が一定数いることが明らかとなっています。他分掌や年次と連携	◎ ◎

○進路指導	・ 進路ガイダンスや保護者説明会、三者懇談を通して、生徒・保護者との相互理解を図り、生徒の進路実現に向けた協力体制を構築します。 ・ 各年次と分掌との連携を強め、生徒に必要な情報を共有し、計画的な進路指導を行います。 ・ 定期的な個人面談を通じて現状把握を行い、生徒の進路実現につながる科目選択ができるよう指導します。 ・ 「産業社会と人間」や「IVYタイム(総合的な探究の時間)」などキャリア教育を充実させ、生徒の進路意識を高めます。また、地域と連携した学習を通して、社会貢献できる人材育成に取り組めます。 ・ 進学に関しては、国公立大学合格を目指し、いなべ特進塾や夏季課外の充実により一般選抜に対応できる高い学力の養成を図るとともに、総合型選抜、学校推薦型選抜にも対応できるように面接指導・小論文指導などを進めます。 ・ 就職に関しては、計画的・継続的な問題演習により基礎学力の向上を図り、面接指導を充実させることで、就職内定100%を目指します。また公務員志望者には早期から対策問題演習に取り組ませることで学力向上とともに意識を高め、進路実現に繋がります。	しながらどのようなアプローチが必要かを検討していく必要があります。 ・ 1年では科目選択に関して、2、3年では進路希望に関して保護者会や進路相談会を計画通り実施しました。 ・ 年次と生徒情報を密に共有し進路指導を行いました。 ・ 「産業社会と人間」等によりキャリア教育を行いながら、年次と基本的な方向性を共有し、科目選択について指導を行いました。 ・ キャリア教育については、計画通り進めることができました。非認知能力を測るテストや地元企業交流会、学校見学会などを実施しました。また、年度末については、いなべ市役所の方にアドバイスをいただきながら、いなべ市の課題について探究学習を行いました。 ・ 総合型・学校推薦の生徒には個々の状況に合わせたきめ細かい指導を行いました。 ・ 3年次をはじめ年次・分掌と協働し、就職希望者全員が早い時期に内定を得ました。公務員も早期からの演習により進路実現に繋げることができました。	◎
--------------	--	--	----------

○生徒指導	・ 基本的生活習慣の確立に努め、学校生活が有意義で興味深く、充実したものになることを目指します。 ・ 学校や社会全体の規則の遵守とマナーの向上に取り組めます。 ・ 安全教育の徹底、環境美化の推進を目指します。 ・ いじめの早期発見・早期解決を目指すとともに、いじめを許さない雰囲気形成します。 ・ 人権に配慮した生徒指導を行います。	・ 自己の持ち物には記名し管理を徹底すること、ロッカーを必ず施錠することを強く呼びかけました。昨年度末に昇降口付近に防犯カメラを設置した効果もあり、本年度は盗難被害が大幅に減少しました。 ・ 生徒会執行部と連携して校則の遵守を呼びかけました。昇降口指導・規律を守る週間を実施し、マナー向上に取り組めました。 ・ 危険予知教育を実施し、生徒自らが交通安全に対する意識を高めました。また、本年度はセイフティバイシクルリーダーの指定を受け、生徒会執行部がいなべ警察署と連携して、ヘルメットの着用の大切さを伝えました。 ・ いじめの被害に即応するために、「いじめ等相談窓口」を設置するとともに、学期毎に「学校生活アンケート(いじめアンケート)」を実施しました。いじめの事象が発生した場合はいじめ防止委員会を中心として、迅速に対応しました。(いじめ認知数5件)また、生徒会執行部と連携してピンクシャツ運動を実施し、いじめ防止の啓発運動を行いました。 ・ 服装頭髪指導をはじめ、あらゆる指導に関し、頭ごなしの叱責といった一方的な指導ではなく、生徒自身がどうすれば良いかを考え	◎
--------------	--	---	----------

○保健管理	・ 各分掌や各学年と連携を図り、学校全体での生徒指導を心がけます。 ・ 保健環境委員会活動を通じて、心身の健康に関する知識、関心を高めます。また、環境美化の活性化を図ります。 ・ 学年やチューターと協力して、ゴミの分別への啓発活動を行い、その習慣を身につけるよう指導します。 ・ 日常の積極的な清掃活動の推進を図り、校内美化に取り組めます。 ・ 教室等の整理整頓を意識させ、学習環境の整備を図ることで、学習意欲の向上につなげていきます。 ・ 定期的に保健通信を発行し、心身の健康を守るための知識を発信します。 ・ 来室時の個別の保健指導を通し、自身の健康に関心が高められるよう指導します。 ・ 生徒がいつも安心して来室でき、心身ともに休むことのできる保健室を目指します。	る指導を行いました。 ・ 週に一回生徒指導部会を開催し、学校全体での意思決定が必要な場合は拡大生指委員会(本年度3回)を開催し、年次、他の分掌と情報共有するとともに、連携に努めました。 ・ 委員会活動として、生徒が健康についての調べ学習をし、文化祭において掲示発表を行い、知識・関心を高めることができました。 ・ ゴミの分別は昨年よりも改善されています。しかし、燃えるゴミにペットボトルや缶が混入していることもあるため、継続指導が必要です。 ・ 校舎及び校地内は清潔に保たれており、日常の清掃活動がおおむね良好に行われていると考えられます。 ・ 日常的には大きな問題はありませんが、SDGsの観点からも、文化祭でのゴミ問題が今後の大きな課題であると認識しています。 ・ 保健通信は毎月発行しています。 ・ 来室時に休養させるだけでなく、自分で健康管理できるよう指導も行っています。 ・ 必要に応じて、SC やSSWにつなげるなど、年次	
--------------	--	---	--

	・ 保健環境部が中心となり、各年次、生徒指導部、外部機関等と連携を図りながら、心に悩みのある生徒の支援に努めます。 ・ 心に悩みのある生徒を教育相談につなぎ、広くカウンセリング室の利用を図ります。	やチューターと適切に情報共有を行っています。 ・ ケース会議:22回 発達障がい支援員来校:9回 (2月末現在) 北勢児童相談所・いなべ市家庭児相相談室・くわな特別支援学校・外部支援機関等との会議への参加や情報交換など適切に連携した取組を進めています。 ・ <SC 相談> 延べ件数:生徒46人 保護者18人 教職員5人 コンサルテーション(専門的なアドバイス)を行った教職員234人 (2月末現在) <教育相談員面談> 延べ件数:生徒15人 <SSW 面談> 延べ件数:生徒3人、 保護者2人 コンサルテーションを行った教職員3人 (2月末現在)	
改善課題			
・ 総合学科として多様な講座を開設すると同時に、教育活動全体に「探究」の視点を取り入れ、生徒が主体的に学びに向かう力を育成する必要があります。そのためにも、授業改善に向けた継続的な取り組みが必要です。 ・ いなべ総合学園高校として何を大切にするか、何に重点的に取り組むかを考え、生徒への指導、教育課程、系列・系統、科目登録等の教育活動全般のあり方を見直していく必要があります。 ・ 生徒が安全・安心に学校生活を送ることができるよう、いじめの早期発見・早期対応、相談できる体制づくり、人権に配慮した取組等に、引き続き、努める必要があります。			

(2)学校運営等

学校運営等に関する項目は、教職員や施設等を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「組織運営」「研修(資質向上の取組)」「情報提供」「保護者・地域住民等との連携」など

また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」：定期的に進捗を管理する取組 「◎」：最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
○ 保護者・地域住民等との連携・情報発信	・ 保護者や地域に向けて、ホームページや広報冊子などで積極的な情報発信に努めます。 ・ 学校説明会(10月12日)の内容を充実させ、中学生及び保護者に向けて、本校の魅力発信に努めます。 ・ すぐーる、Google Classroom などを利用して、生徒及び保護者に学校行事予定の定期的な発信や緊急連絡の発信に努めます。 ・ 台風や大雪などの緊急連絡について、できるだけ早い段階で判断し通知するよう努めます。	・ ホームページは月1回以上の更新をしています。今年度中に、リニューアルの予定です。 ・ 10月に参加できなかった中学生対象に11月にも学校説明会を行いました。・ 10月の学校説明会(10/12)は、昨年度より参加者が増えました。 ※ 申込み者数：中学生 609 人(昨年比+73)、保護者 411 人(+82)、計 1020 人(+146) 広報誌は中学生向けに「学校案内」、「IVY通信」、保護者向けにPTA広報誌「つたわかば」(年2回)を発行し、魅力発信に努めました。 ・ 今年度から教務部と連携し、保護者連絡は「きずなネット」から「すぐーる」に変更しました。緊急連絡(大雪時の対応など)と、定期連絡(行事予定や事務室からの連絡)を効果的に配信するとともに、緊急連絡は早く判断を行うよう努めました。※登録者数：保護者 1031 人(1 年 393 人、2 年 342 人、3 年 319 人) なお、生徒連絡は、Google Classroom を利用しています。	◎

	・ 年次通信を定期的に発行するとともに、三者懇談等の機会を活用し、学校の様子を保護者に伝えます。 ・ 進路別保護者説明会等において、保護者のニーズに合った情報をわかりやすく提供するなど、生徒、保護者、学校の三者が一体となれるよう、連携の強化に努めます。	・ 年次通信は長期休業前など定期的に発行し、各家庭に情報提供を行いました。また、進路別の保護者説明会も計画通り実施することができました。今後は、オンラインやオンデマンドの活用や「すぐーる」へのデータ添付など、こまめな情報発信や効果的な発信方法、また、内容の充実などについても検討していく必要があると考えています。	◎
○働きやすい職場環境づくり	・ 教職員が健康を保持し、私生活を充実させるため、定時退校日の設定や会議時間の縮減等に取り組み、総勤務時間の縮減を図ります。 【活動指標】 ① 定時退校週間に1日以上定時退校できた教職員の割合:95%以上(昨年度 90.1%) ② 部活動休養日を週1日設定し、計画通り運用できた部活動の割合:100%(昨年度 99.6%) ③ 放課後に開催し60分以内に終了した会議の割合:80%以上(昨年度 73.5%) 【成果指標】 ① 1人当たりの月平均 時間外労働:30 時間以下(昨年度 25.7 時間) ② 年 360 時間を超える 時間外労働者数:0人(昨年度 24 人) ③ 月 45 時間を超える 時間外労働者の延べ人数:0人(昨年度 34 人) ④ 1人当たりの年間 休暇取得日数:25 日(昨年度 24.4 日) ・ 良好な学習環境のための適切な施設整備及び一般的な消耗品の在庫管理を行います。 【活動指標】 ①各倉庫の消耗品の在庫チェックを年1回以上行う。 【成果指標】 ①一般的な消耗品の在庫切れなし	85. 5% (12月末現在) 99. 4% (12月末現在) 73. 9% (12月末現在) 24. 3時間 (2月末現在) 24人 (2月末現在) 33人 (2月末現在) 26. 2日 (2月末現在) ① 各倉庫の整理整頓を行ったうえで、在庫チェックを適宜行い、一般的な事務用品の在庫切れはありませんでした。	◎

○資質向上の取組及びチームワークの向上	【活動指標】 ②校内の施設環境整備のチェックを年1回以上行う。(費用の発生する工事、修繕等を除く) 【成果指標】 ②校内施設環境整備実績 1 回以上 ・ コンプライアンス・ミーティングを実施し、不祥事根絶を目指すとともに、学校に関わる全ての人々から教職員が一層の信頼を得るため、言動に注意し、職務に励み、説明責任が果たせるように努めます。 【活動指標】 コンプライアンス・ミーティングを年1回以上実施 ・ 生徒の実態に沿った教育課題等について教職員間で共有し、その課題解決及び一人ひとりの資質向上を図るため現職教育(校内研修)の充実に取り組みます。 【活動指標】 現職教育を年2回実施 ・ コミュニケーションを大切にし、風通しの良い職場とすることで、教職員が同僚性を育み一体感を醸成できるように取り組みます。 ・ 様々な危機に対応できる体制の強化に努め、安全・安心な学校づくりに努めます。	② 職員からの報告を受けた際に直ちに対応し、できるものについては、適宜改善を行いました。(野球場・グラウンド・ゴルフ練習場の整備、屋上樋清掃、ミストシャワー設置、武道場エアコン設置等) ・ 学校全体として、個人情報管理(5月)について、事務部として、公文書管理(5月)、危機管理(9月)についてコンプライアンスミーティングを行いました。 ・ 安全教育(5/29)、部落問題(7/20)、いじめ防止(12/20)、特別支援教育(2/25)に関する現職教育を実施しました。 ・ 校長と教職員の面談を定期的に実施しました。職員会議等で教職員が積極的に発言できる雰囲気醸成に努めました。教職員の発案により、今後の学校のあり方について対話を行う有志の集まりも実施されました。 ・ 前期末にはすべての生徒を対象に、1月には1・2年次生を対象に、それぞれの取組の振り返り、授業や	◎
----------------------------	--	---	----------

	・ 校内ネットワークの管理に努め、統一校務システムを適切に運用します。 ・ 現状にあっていない内規の改訂、分掌内での引継ぎ資料の作成を適切に行います。	学校生活に関する思いを聞き取るアンケート調査を行いました。その結果に基づき、できるものから改善するよう努め、安全・安心な学校づくりにつなげようと思いました。 ・ ネットワーク環境の変化に対応するため、クラウドサーバー移行後のデータ取り扱いに関する校内研修会(12/5)を実施しました。 ・ 生徒心得の改定方法の明記、入学者選抜の実施要項等の整理等を行いました。	
改善課題			
・ ホームページの更新、広報冊子等の発行などによって情報発信を行っていますが、効果があるのか検証する必要があります。また、ICT 機器やネットワーク環境の変化に伴って、もっと効率的な進め方等について検討する必要があります。 ・ 総勤務時間の縮減や年休取得促進は、一人ひとりの教職員の健康を保持し、私生活を充実するための取組であることを、繰り返し、学校全体で確認し続ける必要があります。 ・ 多様な価値観を認め合うために、社会構造や人々の認識を大きく変化させる必要に迫られています。そのような状況に対応するため、学校全体として、また、一人の教職員として、資質を向上させる必要があることを認識し、研修受講を促進していく必要があります。			

6 学校関係者評価

明らかになった改善課題と次への取組方向	○ 大部分の生徒が進路実現を果たし、入学者選抜も高い倍率を維持している。この状況を維持するだけでなく、更に発展させられるよう総合学科としての魅力や特色に磨きをかけるとともに、教育活動の改善に努めてほしい。 ○ 多様な生徒が在籍していると聞いているが、式典での姿や授業中の様子から、集団として生徒は良い状況にあると感じる。挨拶や清掃、時間を守ること等によって良い雰囲気を持続・発展させていくことも大切であると思うので、この観点の取組も進めてほしい。 ○ 「目指す学校像」等を改定するとのことで、今後はそれを実現するための具体的な取組が必要である。探究活動や体験的な学びを発展させるとともに、キャリア教育の一層の充実が必要である。 ○ 具体的な取組を進めるにあたって、マネジメントシートの「取組内容・指標」もアウトカムが図れるような指標を検討するべきである。 ○ 「すぐーる」を導入し、適切に情報発信してもらっている。文書等も添付できることから、よりわかりやすい情報発信に努めてほしい。また、悪い情報も共有してもらった方が不信感を生じさせないと思う。
----------------------------	---

7 次年度に向けた改善策

教育活動についての改善策	○ 新たに定めた「目指す学校像」等を実現するため、探究活動、体験的な学び、地域との連携等の充実に取り組みます。 ○ 学校生活の8割を占める授業を改善することが基本であることを認識し、校内における授業研究、中学校との連携を進めます。 ○ 自他を尊重する人権教育を基盤とした対話に基づいた教育活動、いじめや問題行動への迅速な対応により、誰もが安全で安心して暮らせる学校づくりを進めます。
学校運営についての改善策	○ 新たに定めた「目指す学校像」等を教職員全体で共有し方向性を合わせたうえで、個々の教職員の具体的な取組につなげることができるよう取組を進めます。 ○ 管理職と教職員の対話を大切に、誰もが安心して自分の意見を述べることができる、風通しの良い職場づくりに継続して取り組みます。 ○ 教育活動の充実と働き方改革の両立を目指し、教職員が「やらされ感」を抱かないような職場づくりに努めます。